道志小学校　令和のやまなし教育活動モデル事業　実践報告⑥「自立した学習者として共に支え合う学習実践」

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 実施年月日 | 令和７年１月３１日（金） | | 実施時間 | １時間×２回 |
| 実施形態 | 模範授業実践 | 講師 | 都留文科大学  三崎隆　特任教授 | |
| 実施のねらい  児童が主体的な学習を深めるには、協働的な学習では、互いに高め合おうとする意識を醸成することが必要である。そこで、児童が一緒に学習する仲間を「誰一人見捨てない」ことを目指す学習方法として「学び合い」の実践を取り入れることにした。共に学習している仲間の状況を把握し、全員が課題達成するには、自分にどんな行動ができるかを考えて取り組む実践を算数科の内容を通じて行った。 | | | | |
| 活動の概要  三崎隆教授による「学び合い」授業の実践を行った。１時間目は、「学び合い」という学習方法が何を目指し、どのように学習を進めていくのかをオリエンテーションとして５年生児童に説明してもらった。児童は、自分だけが課題達成することが目的ではなく、共に学習する仲間と一緒に全員が課題を解決することが大切であることを確認した。2時間目は、実際の算数科の授業を三崎教授が指導者として学習を進めた。また、授業の中では、算数の課題として図形の面積と辺の長さの関係から答えを導き出す方法についても取り組み、個別から仲間へと共に学び合う対象を広げながら考えていく学習が進められた。 | | | | |
| 実施によって得られた成果  （成果）自分だけでなく、仲間全員が課題解決をすることを授業の  目的にしたことで、自分が何をすべきかという自立的な気持ちが芽  生え意識の高まりにもつながった。  〇児童が授業においてもっている常識的な感覚から脱皮し、共生的  　な社会で生きていく上で大切な価値に触れることができた。  〇実際の学習活動で、児童の行動としていつも以上に理解が不十分な友達に丁寧に理解してもらおうと努力する姿が見られた。  〇児童が自由に教室内の友達と交流を進めていく中で、相互に支え合う相手が変わり学級全体で課題を追究する雰囲気が高まった。 | | | | |

|  |
| --- |
| 子ども達からの感想  　 ・自分一人で問題を考えて答えを出すことだけでなく、一緒に  勉強している仲間と分かるようになること大切だと感じた。  ・分からない問題を友達の力も借りながら分かるように頑張るこ  とができた。  ・自分が早く問題が解けることが大事だと思っていたが、これか  らの時代には、一緒に勉強したり働いたりする仲間と励まし合  うことが必要だと思った。  ・自分が分からないところを一生懸命教えてくれる仲間がいて嬉  しかった。 |